【姫路市立高浜幼稚園】の取組

１　テーマ

遊び・活動の中で没頭する幼児の育成を目指して
～ 楽しさの質を高めて ～

２　テーマ設定の理由

本園は素直で優しい幼児が多い。しかし、じっくりと遊んだり、繰り返したり、集中したりして遊ぶ姿が少ないように感じられる。遊び込む没頭体験は、幼児の「学びに向かう力」を高くするといわれている。本園の幼児たちにも、主体的に環境に関わり、遊びや活動の中での没頭体験を通して、がんばる力・好奇心・自己抑制・協調性といった非認知能力を身に付けてほしいと願っている。教師は、まず幼児の遊びを理解し、“楽しさ”とは何かを探っていきたいと考えた。

「情動や心情を伴う体験は、幼児が環境に引き付けられ、その関わりに没頭することにより得られる。そして、そのような体験は幼児の心に染み込み、幼児を内面から変える」と幼稚園教育要領解説に記されているように、幼児が心を動かし、没頭体験ができる環境をつくりだしていくことが教師には求められる。楽しさの中で没頭し、そこで得た学びを基に次の体験につないでいけるよう援助していきたいとテーマを設定した。

３　研究経過

（１）１年次（令和２年度）の取組

①１年次研究テーマについて話し合い、共有する。
②神戸常盤大学 多田琴子教授を招聘して公開保育をし、楽しさの質の捉え、教師の役割について考える。
③教師の役割について、幼稚園教育要領より洗い出す。
④“遊び たのシート！”（ドキュメンテーション）の作成

（２）２年次（令和３年度）の取組

①２年次研究テーマについて共通理解をする。
②「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（幼稚園教育要領）からの読取

10の姿	育ちの捉え（楽しさの中身）	教師の援助
(1) 健康な 心と体	①体を動かす気持ちよさを感じる	○幼稚園生活の流れ、幼稚園内の様々な場所や遊具、教師や友達など、それぞれが幼児にどのように受け止められ、いかなる意味をもつのかについて捉え、幼児の主体的な活動を促す環境をつくり出す。 ○幼児が自ら体を動かし多様な動きを楽しむことや、よりよい生活のために必要な行動を幼児の必要感に基づいて身に付けていくことなど、発達に即して幼児の必要な体験が得られるようにする。 ○自分たちで生活をつくり出している実感をもてるようにする。
	②生活に必要な習慣や態度を身に付ける	
	③自分のやりたいことに繰り返し挑戦する	
	④諸感覚を働かせて体を思い切り使って活動する	
	⑤遊びや生活に見通しをもって行動する	
	⑥安全な生活をつくり出す	

(2) 自立心	①身近な環境に主体的に関わる ②自分の力でやろうとする気持ちをもつ ③やり遂げた満足感を味わう ④自分のしなければならないことを自覚する ⑤難しいことでも自分でやってみようとする ⑥諦めずにやり遂げることで達成感を味わう	○幼児一人一人が、自分で活動を選びながら幼稚園生活を主体的に送ることができるように、その日に必要なことなどをどの幼児も分かりやすいように、視覚的に提示するなどの工夫をする。 ○幼児が自分で考えて行動できるよう、ゆとりをもった幼稚園生活の流れを意識できるように必要に応じ個別に援助していく。 ○幼児一人一人の発達の実情に応じて、その日の流れを意識できるように個別に援助する。 ○一人一人の幼児のよさが友達に伝わるように認めたり、学級全体の中で認め合える機会をつくったりするなどの工夫をする。
(3) 協同性	①友達と関わる中で互いの思いや考えを共有する ②考えたことを相手に分かるように伝える ③共通の目的の実現に向け、工夫したり協力したりする ④友達と関わりながら充実感をもってやり遂げる	○幼児たちの願いや考えを受け止め、共通の目的の実現のために必要なことや、困難が生じそうな状況などを想定しつつ、幼児同士で試行錯誤しながらも一緒に実現に向かおうとする過程を丁寧に捉え、一人一人の自己発揮や友達との関わりの状況に応じて、適時に援助する。
(4) 道徳性・規範意識の芽生え	①してよいことや悪いことが分かる ②考えながら行動する ③相手の気持ちに共感したり、相手の視点から自分の行動を振り返る ④きまりを守る必要性が分かる ⑤自分の気持ちを調整し友達と折り合いを付ける ⑥きまりをつくったり守ったりする	○相手の気持ちを分かろうとしたり、遊びや生活をよりよくしていこうとしたりする姿を丁寧に捉え,認め励ましその状況などを学級の幼児に伝えていく。 ○幼児が自分の言動を振り返り納得して折り合いを付けられるように問い掛けたり共に考えたりし、幼児が自分たちで思いを伝え合おうとする姿を十分に認め、支える。 ○幼児同士の気持ちのぶつかり合いや楽しく遊びたいのにうまくいかないといった思いが生じた場面を捉えて、適切な援助をする。
(5) 社会生活との関わり	①家族を大切にしようとする ②人との様々な関わり方に気付く ③相手の気持ちを考えて関わる ④自分が役に立つ喜びを感じる ⑤地域に親しみをもつ ⑥身近にあるものから必要な情報を取り入れる	○幼児が相手や状況に応じて考えて行動しようとするなどの姿を捉え認めたり学級の話題にして共有したりするとともに、そこでの体験が園内において年下の幼児や未就園児、保護者などとの関わりにもつながっていくことを念頭に置き幼児の姿を細やかに捉える ○幼児の関心に応じて絵本や図鑑や写真、新聞やインターネットで検索した情報、地域の掲示板から得られた情報などを、遊びに取り入れやすいように見やすく保育室に設定するなどの工夫をし、幼児の情報との出会いをつくる。
(6) 思考力の芽生え	①身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みを感じ取ったり気付いたりする ②物の性質や仕組みを生かして考えたり予想したり工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむ ③自分と異なる考えがあることに気付く ④新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えを、よりよいものにする	○幼児が不思議さや面白さを感じ、こうしてみたいという願いを持つことにより、新しい考えが生み出され、遊びが広がっていくことを踏まえる。 ○環境の中にあるそれぞれの物の特性を生かしつつ、その環境から幼児の好奇心や探究心を引き出すことができるような状況をつくる。 ○それぞれの幼児の考えを受け止め、そのことを言葉にして伝えながら、更なる考えを引き出していく。 ○幼児が他の幼児との意見や考えの違いに気付き、物事をいろいろな面から考えられるようにすることや、そのよさを感じられるようにしていく。
(7) 自然との関わり・生命尊重	①自然の変化を感じ取り関心をもつ ②好奇心や探究心をもって考え、言葉で表現する ③自然への愛情や畏敬の念をもつ ④生命の不思議さや尊さに気付く ⑤動植物を命あるものとして大切にする気持ちで関わる	○園内外の自然の状況を把握して積極的に取り入れるなど、幼児の体験を豊かにする環境をつくり出し、幼児が好奇心や探究心をもって見たり触れたりする姿を見守る。 ○幼児の体験や気付きを教師が言葉にして伝えることで、幼児がそのことを自覚できるようにしながら、それぞれが考えたことを言葉などで表現し、更に自然との関わりが深まるようにする。 ○飼育や栽培を通して単に世話をすることを教えるだけではなく、動植物への親しみや愛着といった幼児の心の動きを見つめ、ときには関わり方の失敗や間違いを乗り越えながら、命あるものをいたわり大切にする気持ちをより育むように援助する。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	①数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねる	○幼児が関心を持ったことに存分に取り組めるような生活を展開する中で、一人一人の数量や図形、標識や文字などとの出会いや関心の持ちようを把握し、その活動の広がりや深まりに応じて数量や文字などに親しめるよう、工夫しながら環境を整える。 ○一人一人の発達の実情などに即して、関心が持てるように丁寧に援助する。
	②必要感をもって、比べたり数えたり組み合わせたりする	
	③標識や文字の役割に気付いたり、活用したりする	
(9) 言葉による伝え合い	①絵本や物語などに親しむ	○幼児の状況に応じて、言葉を付け加えるなどして、幼児同士の話が伝わり合うように援助する。 ○絵本や物語の世界に浸り込むことで豊かな言葉や表現に触れられるようにしたり、教師自身が豊かな表現を伝えるモデルとしての役割を果たすことで、様々な言葉に出会う機会をつくったりする。
	②経験したことや考えたことを言葉で伝える	
	③相手の話を注意して聞く	
	④言葉による伝え合いを楽しむ	
(10) 豊かな感性と表現	①心を動かす出来事に触れる	○一人一人の幼児が様々に表現する楽しさを大切にするとともに、多様な素材や用具に触れながらイメージやアイデアが生まれるように、環境を整える。 ○幼児同士で表現を工夫しながら進める姿や、それぞれの姿を友達と認め合い、取り入れたり新たな表現を考えたりすることを楽しむ姿を十分に認め、更なる意欲につなげていく。
	②感じたことや考えたことを自分なりに表現する	
	③様々な素材の特徴や表現の仕方に気付く	
	④友達と工夫して創造的な活動を繰り返す	
	⑤友達同士で表現する過程を楽しむ	

③『遊び たのシート！』の見直し・作成

・②を参考に“遊び たのシート！”の中の『遊びの振り返り』に、10の姿を基に育ちや学びを考察した。

・幼児の言葉から、育とうとしている非認知能力や学びを書き加える。

・保育を可視化し、保護者にも幼稚園教育を見える形で示していく。

④保育実践

〔実践事例〕　トイレットペーパーで遊ぼう　５歳児（令和３年５月 20 日～21 日）

○前日の遊び

トイレットペーパーを一人に一つずつ持ち、それぞれ思い思いに遊んでみた。そのまま転がしてみたり、自分の体に巻き付けたり、小さくちぎって雪のようにしたりと、自分たちで考えた遊びを思い切り楽しんだ。遊んだ後、トイレットペーパーを集めてタライに入れた。

○環境構成

水、のり、トイレットペーパーの分量を整え、マーカーの補充インク（赤・水色・ピンク・緑・黄）を用意する。

幼児の姿	★教師の捉え　♡援助　〇環境構成
昨日遊んだトイレットペーパーを見せ、トイレットペーパーから粘土をつくることを伝えた。 「え、粘土？」 「トイレットペーパーが粘土になるん？」 と不思議そうに近くの友達と話をしていた。 教師が「トイレットペーパーが粘土になると思う？」と聞いてみると「ならへんわ！」「いや、なると思う！」とクラスで意見が分かれた。 グループ（５人）に分かれて座り、タライの中でトイレットペーパーを小さくちぎっていった。その中に水を入れると、 「冷たくてきもちいいな！」 「どんどん小さくなってきた！」 「ちょっと粘土みたいやで！」 と言いながらこねていった。 次にのりを、教師が入れていった。 「めっちゃ、ぬるぬるする！」 「粘土になったやん！」とさらにこねていった。 「先生、おにぎりみたいやで！美味しそうやろ？」と団子やハート型をつくったり、 「(グループみんなで) 山つくろうよ！」 と、タライの中で大きな山をつくったりしていた。 団子をつくっていたＣ児が「先生、色付けたいんやけど…」と教師に伝えてきた。 すると、「僕も色付けてみたい！」「色どうやって付けたらいいん？」と口々に言った。 教師から色付けの方法を聞き、単色で色を付ける幼児もいれば、複数の色を混ぜている幼児もいた。 色を混ぜていたＤ児が、「赤と青を混ぜたら紫になるで！」と発言したことで、周りの幼児も試して「ほんまや！紫や！」と様々な色の団子をつくっていった。 できあがったものを紙皿に入れて見せながら、工夫したところや頑張ったところを一人ずつ発表していった。 Ｅ児が「かき氷をつくりました」と発表すると、自然と拍手がおこった。	〇昨日遊んだトイレットペーパーをタライに入れて分量を整えておく。 ★「トイレットペーパー」が「粘土」という全く別の物に変わるのか、疑問をもつとともに、期待をもっている。 ♡個々の意見を認め、意見が分かれたことに共感することで、さらに意欲が高まるようにする。 〇タライ・ブルーシートをグループごとに用意する。 〇水の分量をトイレットペーパーの様子を見ながら調節して入れていく。 ★トイレットペーパーが水に浸されて小さくなっていき、形が変わっていく様子に驚いている。 〇様子をみながらのりを入れていく。 ★粘土になったことに驚きや喜び、不思議さを感じ、感触の気持ちよさを味わい、色々な形づくりを楽しんでいる。 ★砂や土でなく粘土を使って一つのもの(山)をつくるワクワク感を感じている。 ♡教師も一緒に粘土遊びをし、感触の気持ちよさや形づくりの楽しさに共感する。 ★たくさんの形をつくっている中で、他の色が付くともっと楽しくなるのではないかと考えたようだ。 〇机・紙皿・雑巾・薄めた補充液を用意する。 ★最初は偶然にできた紫色だったが、どの色をどのくらいの量混ぜればいいのか知りたいと思い、自分たちで何度も試し気付いた。 ♡Ｄ児の気付きを共有できるよう、全体に伝える場を設けた。 ★Ｅ児の小さな山の上から色水をかけた作品が、誰が見てもかき氷に見えたことで、共感する喜びに繋がり自然と拍手がおこったのだと感じた。 ♡Ｅ児に「みんなに拍手もしてもらえてうれしいね」と声を掛け、認めてもらえる喜びを感じられるようにする。

実践の評価

１日目はトイレットペーパーを使って個々で遊ぶことを予想していたが、友達と一緒にたくさん出したり、タライを使い役割分担して遊んだりするなど、協力して遊ぼうとする姿に驚いた。また粘土づくりでは、感触の楽しさだけでなくグループで協力して山をつくったり、混色の変化まで試したりするなど、教師の予想を超えた姿が見られた。設定保育は教師の予想した幼児の姿から、ねらいや環境を整えていくが、実際に活動する中で幼児の姿をよく観察し、そのときの状況に合わせて臨機応変に変化させていくことも必要である。トイレットペーパーを使って遊ぶことに、幼児は心を動かし、「何ができるだろう？」「どんな遊びがあるかな？」「どのくらい長いのかな？」など、幼児の中の思いが、様々に試して遊ぶ姿になったのだと思われる。また、トイレットペーパーを粘土にすると話したことで、「できるのかな？」「できないのかな？」「やってみたいな」と関心が強くなっていった。その関心に寄り添い、取り組めるよう環境構成をしていったことも幼児の「楽しさ」や「没頭する姿」につながったのだと思う。さらに色を付ける、混色するといった実験的な過程を納得するまで何度もできたことが、楽しさの質を高めることにつながったのではないかと思う。

⑤姫路市立幼稚園教育自主研究会の開催

・研究紀要の作成
・ビデオ撮影した保育映像による各園での園内研修
・実践発表、指導助言、グループ研修、講演（神戸常盤大学　多田琴子　教授）

（３）３年次（令和４年度）の取組

①２年間の研究の実践検証

・没頭して遊ぶ姿が見られるようになるまでの遊びの流れや、幼児の試行錯誤などを捉え、“遊び　たのシート！”にまとめていく
・幼児の没頭する姿は、一人一人違う形で表れてくることを踏まえながら、保育の組み立てを考えていく。
・幼児と共につくるドキュメンテーションの工夫をしていく。

②幼児と共につくる『遊び　たのシート！』

〔ドキュメンテーション事例〕　『遊び　たのシート！』

遊び たのシート！

わたしたちは絵本作家！

令和４年９月下旬～11 月中旬
５歳児ぶどう組

保育室で遊んでいると「絵本をつくりたい！」とＡ児が教師に言ってきました。絵や字を描くことが好きなＡ児です。３枚の厚紙をつなげてＡ児に渡すと、そこに絵や文字をかき始めました。その様子を見て他の幼児も興味をもち、同じように絵本をつくり始めました。クイズの絵本や、好きな絵を描いた本、図鑑や物語の絵本など、自分で考えた絵本づくりをする日が続いていきました。

創造
お話し考えた！
ひらめき

挑戦
絵本つくってみたい！
意欲

想像
私は冒険の話をつくろうかな
創造

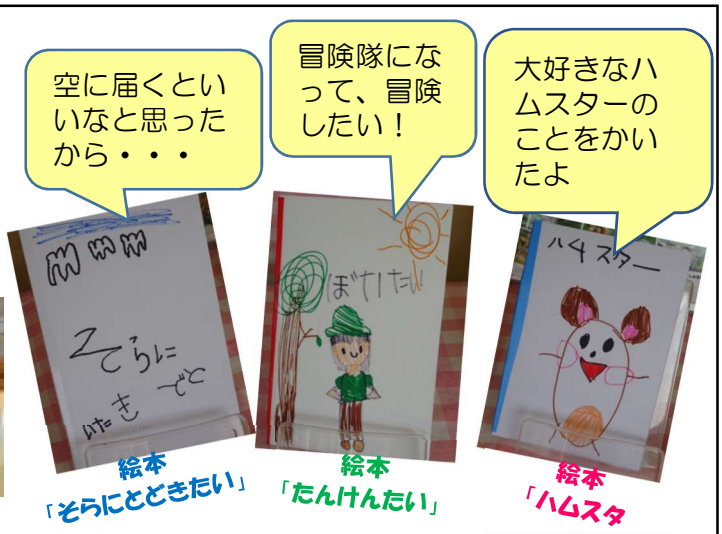
調べる
“りょ”ってどうやって書くん？あいうえお表で調べてみよ！
知りたい

友達からの刺
友達の絵本も面白い！私ももっと面白い絵本つくろうっと！
新たな意欲

絵だけの絵本をつくっていた幼児も、２冊目は“あいうえお表”を見ながら文字を入れて絵本を作る姿が見られました。紙が３枚では足らず「増やしてほしい」と訴えてくる幼児もいました。どの絵本も子どもたちの好きなものや思いや、夢が詰まっていて、とても面白い作品ばかりです。

絵本を作る姿が１０月後半ぐらいまで続いたこともあって、お店屋さんごっこ（11 月）のお店の一つにしようという意見が出てきました。

絵本屋さん（図書館型）の棚に並べられた、子どもたちの絵本



あこがれ

おもしろいなぁ（4 歳児）

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(1)	(2)	(3))	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

遊びの振り返り

絵本作りは、好きな遊びの時間に一人の幼児が始め、クラス全体へと広がっていきました。絵を描くことが好きな子どもたちではありますが、(8)(9)物語を考えることはまだ難しいと思っていたので驚きました。絵本を読んでみると、(6)(10)物語として流れがあり、起承転結があるものもありました。(2)(5)(10)自分の興味があるものを図鑑のように紹介する本もありました。友達の作品にも興味をもってほしいという教師の思いから、降園前に毎日２冊ずつ幼児がつくった絵本を紹介すると、“自分の絵本をもっと読んでほしい”と、２冊目、３冊目と絵本をつくる幼児の姿もあり、(1)(2)今まで以上に主体的に遊びが進んでいくようになりました。絵本作りからお店屋さんごっこへと続き、(3)(5)交代で店番をしたり、お客さんに絵本の紹介をしたりするようになり、教師が「お勧めの絵本はどれですか？」と尋ねると、(9)自分なりの意見をもって勧めてくれました。

②講師招聘研修

・神戸常盤大学　多田 琴子 教授

「幼児とともにつくるドキュメンテーション」

４　３年間の研究を終えて

（１）成果

①振り返りの時間やクラスの時間から楽しさの質の高まりへ

・楽しさを共有することが、楽しさの質の高まりへとつながることが分かった。この時に教師の願いや適切な援助が、次の活動への没頭する姿になっていくことを考えると、幼児が活動しようとする姿を予想しながら、言葉を掛けたり、環境を構成していく大切さを学んだ。

②没頭する姿から見えてきた個人差の捉え

・遊びや活動に没頭する姿は、皆一様に現れるわけではない。興味・関心の持ち

方や持つ時期、遊びに入っていくきっかけにも違いがあるように、幼児の没頭するタイミングは一人一人違う。すぐに没頭できる幼児には、その楽しさの中で学びを得られるような教師の関わりが必要となってくる。また、遊びの中で没頭していく姿が見えにくい幼児であっても、幼児の興味や関心に添いながら援助していくことと、幼児が没頭していくタイミングまで待つ姿勢が、教師には必要であると知ることができた。

③『遊び たのシート！』の利点

・以前のドキュメンテーションは、遊びや活動の写真と幼児のつぶやきを保護者にみていただくことで幼稚園での様子を伝えるものが多かった。『遊び たのシート！』の作成で、幼児の姿とともに、幼児が何を学び、どんな育ちが期待できるかを、少しずつ伝えられるようになってきた。

・『遊び たのシート！』として、遊びの流れを振り返ったり、幼児の心の動きを再考察したりすることで、その活動における幼児の成長を客観的に捉え直すことができるようになった。

（２）課題

①一人一人の没頭できる環境とともに、クラス全体で没頭体験できる活動の工夫

・発達年齢を考慮しながら、クラス活動としてみんなが没頭できるような遊びや活動をつくっていくことで、友達の存在や協同（働）の面白さを知り、クラスとしての高まりが期待できるため、環境構成や場の持ち方を考えていきたい。

②幼小連携に向けて

・『遊び たのシート！』を通して幼稚園の遊びや活動の中で、挑戦する姿、辛抱強く取り組む姿、自分の思いを伝えようとする幼児の姿や、友達と協力したり折り合いをつけたり、適材適所の役割分担をしたりする姿などの、「学びに向かう力」が育っていく具体的な様子を伝えていきたい。

・幼稚園と小学校の学びの連続性を意識した、『遊び たのシート！』の作成を目指し、幼児が小学校へのあこがれや期待をもつとともに、没頭体験から得た自分たちの生活への自信を強くもてるように支えていきたい。

5　参考文献

『幼稚園教育要領』文部科学省
『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）
『０～５歳児の非認知能力』佐々木 晃（チャイルド社）
『保育の心意気』秋田 喜代美（ひかりのくに）
『語り合いで保育が変わる』大豆生田　啓友（学研）
『保育者の地平』津守　真（ミネルヴァ書房）
『専門家の知恵』ドナルド・ショーン（ゆみる出版）